



自治協議会が 元気な地域づくりの
今、を発信

小塩地区

(No. 4)

地域計画から

見えた課題

小塩地区は、うきは市の東南部に位置し、大分県日田市と隣接する中山間地です。

全国の中山間地同様に少子・高齢社会・核家族化が進む中、集落（13の集落）の存続と農業従事者の高齢化、担い手の減少による農地・農業の維持存続、人口減や空き家の増による過疎化が進んでいます。

1985年（昭和60年）には人口1314人であったものが、それから約30年後の2016年（平成28年）には、646人と半減、世帯数は277世帯が233世帯、農家数は236戸が161戸。高齢率は、14・6%が45%となり、限界集落ではなく限界「校区」となりつつあります。集落によって、高齢率70%を超えています。



▲過疎化や離農などの危機から地域を守ろうと集落営農法人を立ち上げた広島県東広島市小田地区を7月に視察

一方、年少率は6%で15歳未満の子供はわずか40人です。
このような中、小塩保育所は統合により廃園となり、公共交通（バス）も廃止され、現在小学校の再編が検討されているところです。

市内11地区に自治協議会（前身は公民館）が平成26年に設立され、中長期を展望しながら新たな自治活動を展開しています。設立と同時に地域の課題を明らかにし、課題解決のための一環として「地域計画」を全11の自治協議会で策定しました。

そのなかで、中山間地の自治協議会では、当面する課題、特に必要があるもの、地域の魅力を高める優先的に取り組むべきものとして、耕作放棄地の整備・有効活用、耕作放棄地の無い地域づくりとなっています。

「農地保全」へ 踏み出した一歩

私も、小塩地区自治協議会も農地の保全、維持存続を主要な課題とし、農業委員、中山間地直接支払代表、ホタルの里営農組合（機械利用組合）、真美野を考える会、市、JAにじ、県の改良普及センターで組織する「農政等懇談会」を立ち上げ、水田裏作やブランド化の推進、耕作放棄地でのそば栽培、中山間地の振興作物などについて議論しているところです。

また、当地区は環境省から「生物多様性保全上重要な里地里山」に認定された地区で、ホタルを地域資源として、6月の「ホタル祭り」や秋には収穫を祝う「秋祭り」、ホタル公園のキャンプ場化、ふるさと体験と銘打ち「田植え・椎茸菌打ち・稲刈り体験」やそば打ち体験などを通じ、自然豊かな地域性をアピールし都市との交流、大学生との交流などを行っているところです。いずれにしても、これまでの10年とこれからの10年は大きく様変わりするものと認識し、農業のみならず、高齢者に対する福祉サービスなど新たな取組を模索しています。



▲中村学園大学の学生や韓国からの留学生が、小塩でそば打ちを体験

●問合せ 市民協働推進課
ユニティ支援係 TEL 7554982